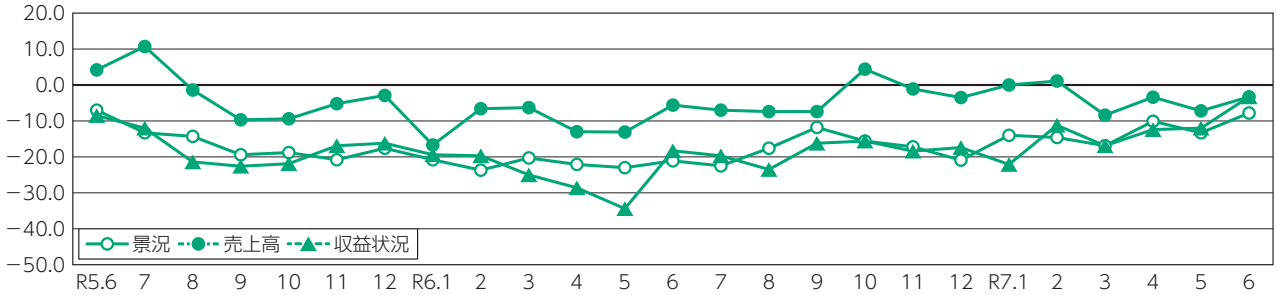
6月の道内景況 情報連絡員レポート

コスト高止まりが続く中、一部業種に明るい兆しも。人手不足対策は、道半ば。

概況

主要DIの推移は、前年同月との比較で、「景況」、「売上高」、「収益状況」のすべてが減少した。
また、5月から6月の推移は、「景況」、「売上高」、「収益状況」のすべてにおいて増加した。
情報連絡員によると、製造業では、原材料や資材の高騰を補完できるほどの売上は見込めず、厳しい状況であるとの報告が寄せられた。また、人手不足も深刻で、廃業や倒産を心配する声もあった。生産・販売量が増加した業種と売上不振の続く業種と報告が分かれている。非製造業では、6月は連休がなく、イベント開催の集客は伸びなかったとの声が聞かれた。値上げの影響で、安価な商品へのシフトが進み、売上が減少したり、必需品以外の買い控えが見られているとの報告もあった。人手不足は非製造業でも深刻であり、移住相談窓口を活用した地域PRやイベントへの参加など、各業種で様々な試みが行われていると報告があった。

主要DIの推移



景況天気図（前年同月比）

	全業種			製造業			非製造業		
	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比	5月	6月	前月比
業界の景況	△13.3	△7.8	5.5 ↗	△20.0	△3.1	16.9 ↗	△9.4	△10.3	△0.9 ↘
売上高	△7.2	△3.3	3.9 ↗	△6.7	△12.5	△5.8 ↘	△7.5	1.7	9.2 ↗
収益状況	△12.0	△3.3	8.7 ↗	△7.0	0.0	7.0 ↗	△15.1	△5.2	9.9 ↗
販売価格	24.1	22.2	△1.9 ↘	23.3	31.3	8.0 ↗	24.5	17.2	△7.3 ↘
取引条件	△3.6	7.8	11.4 ↗	6.7	15.6	8.9 ↗	△9.4	3.4	12.8 ↗
資金繰り	0.0	1.1	1.1 ↗	△3.3	0.0	3.3 ↗	1.9	1.7	△0.2 ↘
雇用人員	△13.3	△15.6	△2.3 ↘	△16.7	△12.5	4.2 ↗	△11.3	△17.2	△5.9 ↘

天気図の見方
各景況項目について調査月と前年同月を比較して、「増加」（または「好転」）したという回答（構成比）から「減少」（または「悪化」）という回答（構成比）を差し引いた値（DI）をもとに作成。天気の表示は凡例のとおりです。

（凡例）
30以上
10～29
9～△10
△11～△29
△30以下

製造業

食料品

- 現在のところは米不足や米価格の高騰、アメリカの関税問題がまだ長引いていることによる小麦粉や蕎麦などの価格への影響はなく安定している。暑さが続き、これから収穫時期を迎える小麦や蕎麦への影響が心配される。道内での収穫量が減少することにより、小麦粉や蕎麦粉が年末へ向けて値上がりする可能性がある。（全道）

- 味噌・醤油出荷量

（前年対比）

味噌出荷量	道内単月出荷量（令和7年5月）	92.3%
	道内累計出荷量（令和7年1月～5月）	97.0%
	全国累計出荷量（令和7年1月～4月）	101.4%
醤油出荷量	道内単月出荷量（令和7年5月）	102.6%
	道内累計出荷量（令和7年1月～5月）	99.3%
	全国累計出荷量（令和7年1月～4月）	98.3%

- 令和7年5月単月の道内出荷量は、醤油は良かったが、味噌は2か月連続して悪かった。全国平均（1月～4月）と比較しても、道内の味噌の出荷量は悪い。
- 全国（1月～4月）の醤油の出荷量は、前年比を割っている。
- 道内の味噌販売業では、原材料費・エネルギー・物流費等の高騰で、価格改定のお願いをしていると聞いている。今後の味噌の出荷量に注視している。（全道）

- 市場における水産物については、漁獲が低迷しており、各業者の価格のつり上げによる買取合戦の駆け引きがなされ、末端の消費者には買えるような価格帯になっていない。あらゆる商品が更なる値上げで、魚離れが深刻化しそうである。
- 日本近海の水産資源はどのように変化しつつあるのか（ただ獲れない、いないだけでは分からない。南の魚が北海道で獲れている現状など）、他地域では漁獲の変化がどのようになっているのか、気になるところ。（函館）

木材・木製品

- 6月のトドマツ原木の工場への入荷は、前月期同様落ち着いている。
- 市況については在庫が不足している状況になく、増加傾向にあるものの保合で推移している。
- 国有林材のトドマツ一般材については、全道で平均的に荷動きが活発化しているが、一部越材への対応が適切になされていない。越材について

は、品質が劣化しているにもかかわらず、価格の見直しがされていないなど、買い手に対するアプローチが施されていない。
- カラマツ原木については一時、東京の商社が本州向けに函館港から移出をしている。また、木質バイオマス原料については順調に集荷されており、価格も高止まりの傾向である。
- 道南スギについては回復の兆しが全く見えず、４ｍ材の採材を持って販路を開拓しようとしている。
- トドマツ製材市況は先月に引き続き、景気後退等の影響により新規住宅需要が前月に比べ減少しており、回復することは不可能に近い。建築用材については、非住宅、土木資材については多少の動きがあるが、価格は弱気配～保合の状況にあり、カラマツラミナについても減少傾向で推移している。市況はカラマツ、エゾ・トドマツは弱含みが見込まれる。本州のスギが市況に入り込み、道内の市況を圧迫しつつあり業界内では脅威に感じている。紙原料は不足気味で原料材価格が上昇していたが、全体的に下降気味である。
- なお、木材業界内では、釧路市への新たな工場進出が白紙になったとされているが、道内の木材業界の活性化のため、期待する声が日に日に増している状況であり、今後もその動向に注目が集まっている。（全道）

- ６月は定例品の受注のほかにスポット案件も増えたことから生産・販売量ともに好転した。７月も引き続き受注量が確保できており、長く続いてきた受注難が、多少なりとも回復の兆しが見えてきた可能性がある。（十勝）

窯業・土石製品

- ６月の生コン出荷量はおよそ 272 千 m^3（前年同月比 94.4%）
- 地域別には、前年同月を上回った分会は 27 分会中、10 分会で前年（増加は８分会）を上回った。前年同月と比較して増加したのは道央、後志、室蘭など。一方、減少したのは千歳、道南、西十勝などであった。（全道）

- ６月の出荷実績数量は、前年同月対比 195.91%の増加。主な出荷は市役所本庁舎建設、牧場、漁港、ドラッグストア等。（室蘭）

- 生コン販売価格は昨年 10 月１日より値上げをしていた。釧路地区においては、本年度着手予定物件が次年度にずれ込んだことにより、本年度の出荷想定数量は当初計画より減少の可能性があり、今後の状況を注視していかなければならない。また、東部地区、根室地区においては、順調に推移している。（釧路）

- 運賃や人件費等のコストが高止まりしており、収益の好転には至っていない。
- 公共事業自体は大きく減少しているわけではないが、再生骨材の台頭により、天然骨材の需要はかなり落ち込んでおり、業界全体として先行きは不透明。（全道）

鉄鋼・金属

- 自動車向け、上下水道向け、建設資材向けはやや悪い。加工機械・ロボットは悪い。建設機械は多少持ち直し。引き続き関連市場は全体的に依然思わしくない。（全道）

- 室蘭製作所は、函館造船所向け造船ブロック、修理船、陸上工事（クレーン等）の３部門で工場が稼働され、従来よりも仕事量の増加で人手不足が続いている。造船関連職種の作業員が地元におらず、本州方面からの出張者、外国人労働者等で人員補充を行っているが、高齢化が進み、造船業は依然として不安定な状態に置かれると予想され、先行き不透明。（室蘭）

一般機器

- シール・ラベル印刷の当組合員１社がコロナ禍から売上不振が続き、６月に破産手続開始となった。
- 物価高騰対策は早急かつインパクトある実施のため、食料品・生活必需品の消費税減税とともに 10 万円給付金又はマイナカードでのポイント給付実行、ガソリン減税の実施を早急に実現することが必要。財源は大企業法人税、高所得者の税金アップで賄う。電気料金の補助額の大幅な増加と冬季期間延長の実施も必要。（札幌）

- 毎月何かしら資材値上げの話がある。中国や中東情勢により今後も不安である。遅れながらも引合いがきているが、７月に選挙があるため、状況によっては再び鈍化しないか心配。（全道）

その他製造業

- 引き続き、物価高騰による固定費（人件費含む。）の増加、原材料の高騰を補完できるほどの売上の増加が見込めない厳しい状況が続いている。世界的な情勢の影響もある中、今後も抜本的な景気対策を望む。（旭川）

- 日本製紙が８月１日からコート白ボール紙を 15%値上げすると発表した。シェア 40%の王子マテリアの動きに注目しなければならない。また、段ボール用原紙の動きにも警戒が必要である。需要は多少ではあるが上向きのようだ。製品価格の値上げができなかった企業や、慢性的な人手不足の企業などの廃業や倒産が心配。（全道）

非製造業

卸売業

- 生活雑貨、衛生用品は値上げの影響で安価な商品へのシフトが進み減収減益。値上げをしても消費者の購入単価は変わらない。
- 靴、履物ではスリップインタイプのスニーカーに人気が集中。量販店から百貨店まで販路が拡大しており、卸は取扱いの有無により明暗を分けている。
- 検査機器、空調機器、事務機器等のハード面は前年比で売上・利益とも改善している。
- 雇用人員は不足気味で、技術者の確保、育成が難しくなっている。
- 米国の動きに対する不安や消費の低迷で全体的に景況感は悪化している。（札幌）

- 本格的な夏となり、観光客の入込が国内外問わず、市街地や観光地で目立つようになってきた。
- とかち帯広空港では初めての国際線定期便、韓国の航空会社（LCC）が就航した。（帯広）

- 令和７年６月の当組合買付高は仲卸、荷受 1,643,473 千円（税抜）で、５月実績額 1,426,597 千円（税抜）より 216,876 千円ほど増加した。６月は５月に比較し、稼働日数が多かったのと、道内生鮮品が出そろい、出荷者における出荷量が増大した。本格的に道内産の生鮮品が増える来月にかけて順調に増加しそうだ。（道央）

- 当月は、菓子卸も価格高騰により、売上は伸長しているものの、菓子の販売個数が昨年より減少しており、商況は若干厳しくなっている。観光土産菓子も、前年より伸びているが、旅行客が閑散期に入っているため、こちらも前年より落ちている。（全道）

小売業

- 前年比較　物販 96.4%、金融 94.8%。５月 30 日～６月 15 日まで旭川で開催された全国菓子大博覧会の来場者は 15 万人との報告であった。また、今年で 10 回目を迎える旭川デザインウィークが６月 15 日～６月 23 日に開催された。家具やクラフトをはじめとする地場産業を軸にデザインの祭典が行われ、学生による「まちなかキャンパス」が買物公園で開催されるなど、観光客や市民で中心市街地の人通りは賑わっていた。業種別の売上では、家電系の売上が 73%と落ち込みが大きく、衣料品も 91%にとどまり、全体でも前年割れとなった。（旭川）

- 会議所が５月の大型店とスーパーの売り上げ状況を発表した。大型店２店は前年同月比 28.9%減（比較店数３店）だったが、スーパー３社は売上を大きく伸ばし、前年同月比 12.2%増となった。スーパー３社とも米価格の押し上げが、前年同月実績を上回った要因としている。（帯広）

- 各加盟店も若干ではあるが、売上が上向き、収益状況も改善がみられる。これから夏祭りなどの地域イベントが増え、彼岸の特殊需要などもあることから、回復に期待する。（日高）

- 前半はウニが昨年より安い価格だったので客足は好調だったが、漁師がナマコ漁に専念したのでウニの価格が高騰し、客足が止まった。月末特売日にようやく客足が戻ったが、10 時を過ぎると観光客ばかりで、地元客は少ない。６月も平日の客入りは悪かったが、特売日は客入りが良かった。（小樽）

- ６月開催の定時総会では、組合員の多くが釧路の景況の悪さを口にしており、ある組合員においては本業とは全く別の業務を請け負い、経営を維持しているとのこと。また、多角経営企業の組合店においては地方出店に着手するなど、市場拡大に尽力しているそうだ。総会を終え、休業中の組合員店より再開のめどがなく退会の意向を伝えられ、本年度末に１店減となる。昨年一昨年と退会者が続いており、景況不振や後継者難による廃業、退会の増加が懸念される。
- ６月の状況について、販売事業３部門の実績は、携帯電話販売は独自イベントの開催と出張販売の実施から単月の計画値をクリア、旅行については個人旅行の低迷から前年比マイナス、保険については継続して企業訪問を実施しており提案書を作成するものの、成約には至っていない。（釧路）

- ６月は天候が回復し期待したが、新車を購入する客は思った以上に少なかった。今年の買い替えは控え、ほかの経費に回したと思われる。（全道）

●昨年のこの時期は、やはりアニメ映画「名探偵コナン」の影響が大きく、クルーズ客船の入港や JRA 函館開催、函館マラソンの開催と内外問わず大変多くの方々が函館朝市に足を運んだ。今年は JRA のスケジュールが変更となり、函館マラソン当日が一番大きな重賞「函館記念」と重なったので、周辺ホテルでは早くからオーバーフローの状態が続いていた。当連合会でも例年同様、函館マラソンでのエイド対応として「一口海鮮丼」の振る舞いを協賛参加した。フルマラソンコースのフィニッシュ前の第 12 エイド(フル 35.8km 地点)で 2000 食以上を提供し、例年これを目当てに参加される方も多く、皆さんに大変喜んでいただけた。当連合会は、函館市や地元での取り組みに微力ながら積極的に協力している。 (函館)

●例年、６月は市内でよさこい祭り・北海道神宮祭・大通公園の花フェスタと、大きなイベントがあるが、飲食店・お土産・ホテルと売上の大きな伸びはあまりなかった。時鮭は価格が前年より安く売りやすかった。生イカの入荷はほとんどなく、今年もイカの入荷は不安定。 (道央)

●売上前年比 98%。アスパラ地方発送で利用していた農家が減少し、今年度は全く取り扱いがなかった分、売上減となった。 (札幌)

●６月は、連休もなかったので観光客は比較的少なめだった。６月 14 日の和商の日には、「トキメキときまつり」と題して、地元の東部漁協と釧路市水産課の協力のもと、ときしらずの重さあてクイズや解体ショーのイベントを開催し、大盛況であった。 (釧路)

●道央、特に札幌圏は今年は昨年より暑さが遅かった分、エアコンの売上げは減少し、全体的にも悪い。道東圏はエアコンの売上げが伸びている。 (全道)

●小売が低迷、ローン販売も少ない。輸出関連銘柄の需要が低くなってきている。 (札幌)

●農作業が順調に進んで一息ついている。資材コストの増加と労働力不足が深刻。 (全道)

●春先需要の一部加工品販売(受託加工)が好調で推移している。
●当組合員の求人に対して応募はあるものの採用には至っていない。移住を検討中の相談窓口を利用し、イベント等出展による PR 活動を継続中。製品 PR、求人、SNS 発信等で活用している。 (下川)

商店街

●６月共通駐車券の利用は前年同月比 95.8%、買物共通バス券は前年同月比 80.0%。共通駐車券は前年比微減。街中で整備が進む新しい施設に期待。 (帯広)

●都心部においては、「災害予言」の影響もあって、海外からの旅行者に一部キャンセルの動きが見られるが、「YOSAKOI ソーラン」や「北海道神宮例大祭」などの大型イベントの開催と好天に恵まれたこともあり、来街者はやや増加した感がある。一方、地域の商店街は、「夏まつり」等のイベント開催や７月～８月に向けたイベント準備の動きが目立つが、前月と同様、景況は厳しい状況にある。 (札幌)

サービス業

●上部団体の組合連合会による団体協約の締結により、価格転嫁がスムーズに行われるようになり、業績については好転傾向にあるが、慢性的な人材不足をどう解消していくのかが今後の課題でもある (札幌)

●現時点での公共投資の発注量は堅調であり、防災・減災ニーズも高まってきているため、業績は前年度並みから数%程度増加で推移している。一方で専門及び熟練技術者の確保が困難になってきているため、今後、組織内での技術者養成に加えて、新技術を積極的に活用した生産性向上への取組の必要性を感じている。さらに、事業の確保を図るべく民間企業及び異業種の顧客獲得のための方策も真剣に考えなければならない。 (全道)

●先月に比べても大きな変化はないものの、依然として営業状況は厳しい。６月から暑い日が続いているが、利用者の極端な減少はない。 (全道)

●大手システム開発企業の中高年 IT 技術者が、住む環境や将来を考えて、人材不足に悩む道内の中小 IT 企業に転職・移住するケースが増加している。道内中小 IT 企業にとっても、理系新卒採用や中途採用が難しいことを踏まえて、即戦力の人材を道外から採用できるのは、渡りに船の手段として歓迎している。転職・移住の対象は取引先の首都圏の大手システム開発企業の中高年 IT 技術者で、道内中小 IT 企業がリクルート活動を持ちかけることからスタート。社内募集に応募した人材をマッチングして採用企業が自社の風土に見合った人材の採用可否を決める。大手システム開発企業側も新陳代謝のための若返りやコスト削減に寄与することから歓迎する傾向が強く、道内中小 IT 企業にとっても今後の取引上、太いパイプができることにもつながる。応募する中高年 IT 技術者は地方の中堅中小 IT 企業への転職・移住をチャンスとして捉え、IT 企業側も即戦力のマネージャー候補を獲得できる。人材不足解消の手段としても有効で、賃金の上昇を見込んでも、既存人材に対する技術スキル教育や生産性向上にもつながり、道内中小 IT 企業にとっても大手システム開発企業にとっても転職・移住する本人にとっても「三方よし」となる人材確保策として注目されている。 (全道)

●国交省陸運(自動車整備)関係の制度改正が矢継ぎ早に行われ、組合員(事業者)が対応に苦慮している。ひとつひとつの制度が周知され、対応がなされたことを確認してから展開していただきたい。 (旭川)

●宿泊入込数　前年比 91.1%。道内客、道外客、海外客すべて減少。特に前年比、海外客の減少が大きかった。 (十勝)

建設業

●５月から目立った動き、変化はない。７月からハローワーク経由の集団求人が解禁されるのでその動向を注視したい。原材料費や人件費の増加傾向は継続しているが、大きな影響はないと感じる。
●働き方改革に加え、熱中症対策の強化、育児・介護休業法の改正など、労働者を守るためのものが人材不足への拍車をかけることが懸念される。また、それらの効果的な周知方法に苦慮している。 (札幌)

●各官庁の令和７年度工事について、第１四半期(４～６月)は発注本数が多い時期だが、電気工事については、現状では不調等の大きな混乱はない。札幌発注の設備工事は、一昨年から不調問題が深刻だが、現状の労務費相場を反映した「見積活用方式」による発注も試験的に実施された。現状では、電気工事も設備工事も、業界側の実情を踏まえ、工事積算方法や入札制度、工事履行の諸制度について色々と改善していただけるような方向にはある。ただ、ここにきて設計業務の不調が一層深刻化しており、今後の予定物件の発注が停滞していくことも懸念される。民間工事では、分野や地域性によっては濃淡があるものの、発注状況、発注見込みなど堅調な状況。札幌市内の大型の建て替え関係、次世代半導体工場に関わる千歳周辺のへの設備投資はまだまだ続く見込み。
●昨今は、電気工事、設備工事、設備設計業界などで、札幌市や北海道に対して、「民間工事の労務費相場が劇的に上がっているので、公共工事労務単価による発注では、業者が敬遠してさらに不調問題は深刻化する」ということを訴えているが、自治体側は国土交通省の積算方式を堅持せねばならないとの姿勢が頑なであり、国土交通省の指導にある「発注単価は自治体裁量で自由に設定して良い」ということを強く打ち出す必要がある。 (全道)

●官庁工事の発注により、建設業については忙しい状況にはあるが、資材の高騰や人手不足が続いており、収益の好転には至っていない。売上高は前年並みで推移しているが、全体に人員不足や新規雇用が進まない等の問題をかかえており、厳しい。 (北広島)

●６月１日からの水道週間に合わせて、組合員６社による恒例の市内児童公園(18 か所)の水周り(給排水設備)点検の奉仕作業を実施した。公共の発注工事は、今年度予定の発注が全て完了し、組合員は各社とも量水器取替や老朽管更新工事及び民間工事で忙しい状況が続いている。
●量水器の取替工事受注に関し、５工区を４社で受注するはじめてのケースとなり、今後の影響が懸念される。
●名寄市は道内一のアスパラ産地で、収穫は７月の第１週で終了となる。中心部では「アスパラ祭り」が盛大に開催され、市内外から多くのお客様で賑わった。 (名寄)

運輸業

●燃料油の販売量が減っている。これは、運送業界の 2024 年問題の時間制限からくるものと思われる。 (小樽)

●日用雑貨・食料品の輸送は安定しているが、設備投資関係の物の動きは良くない。また例年同様に農産物輸送も少ない。
●地域の情勢を反映しているわけではないが、各組合の対前年の売上伸び率は、札幌＋３%、函館＋５%、十勝▲５%、旭川＋41%、苫小牧▲13%、空知▲６%で、全体では＋６%となっており、運賃の値上げにより売上の増収がある。 (全道)

●野菜類は高温少雨の影響を心配していたが、現在のところ順調な生育状況である。全国的には異常な高温、ゲリラ豪雨が発生しており、今後の天候が心配される。
●日用品、建築資材関連は依然荷動きが良くない。今夏は高温が予想され飲料関係の動きが早まりそうだ。 (石狩)

●売上高は前年同月比(５月)4.71%減少。
●乗務員数は前年同月比(６月)0.7%増加。
●５月分チケット取扱高は前年同月比 8.84%増加。 (旭川)